

市立図書館江島分館 を見学してきました

市立図書館江島分館が、江島カルチャーセンターを改装してとして昨年4月にオープンしているの見学してきました。

図書館分館といっても、主に小学生以下を対象とした図書を揃えている「子ども図書館」です。閲覧室には、子ども用のテーブルと椅子もあり、床はカーペット敷で、家庭的な雰囲気子どもと一緒に図書にふれられるのがこの分館の魅力です。「おはなしえほんの会」なども開催され、子育て世代の方々に親しまれているようです。

子ども図書館ですが、トイレは昔のまま大人用トイレしかなく改善が望まれること、2階には100人以上入るようなホール（ギャラリー）があるが、そこで催し物をするには駐車場が20台分しかなくアンバランスなことなど感じられました。

この建物は、もともと江島土地区画整理組合が事務所として使用していたものを平成11年末に解散とともに鈴鹿市寄付され、文化振興事業団に施設の運用を委託していた建物ですからこのようなアンバランスが



沖縄の人たちの熱い思いを感じたい。1月20日から2泊3日で沖縄の宜野湾市と辺野古に行きました。

あるのでしょう。

今はインターネットが普及しているので、ネットやスマホで鈴鹿市図書館だけでなく県内の図書館からも、本の貸出予約ができて借りられるシステムが図書館本館ではできていますが、ここでもそのようにネットで予約して、受け取ったり返却したりできるようになるといいですね。

そんな話を友人としていると、江島分館もいいけど、白子のショッピングセンター内に図書館分館ができるともっといいねという話になりました。図書館分館といっても何万冊もの図書を揃える必要はなく、ネットで予約して、受け取って返却する「窓口」です。白子のショッピングセンター内には、子育てボランティア団体が、子どもの遊び場と一時預かりをしています、そのあたりに図書館分館ができれば、市民の利用度はぐっとあがるのではないのでしょうか。

図書館で「貸出カード」を作ってきました

久々に図書館に行ってきました。職員さんのアイデアと努力であまり経費をかけずに、ずいぶんとリニューアルされています。特に2階は、「新聞閲覧室」や「飲食コーナー」も作られ、ゆったりと読書ができます。

私も30数年ぶりに図書館の「貸出カード」を作ってきました。

最近、パソコンやスマホから、蔵書を検索して貸出予約をすることができるようになってきました。これもまた利用しようと思います。

ネット予約した本の受取と返却が、公民館とかショッピングセンターとか、近くで出来るようになるってそう便利になり、利用がぐっと増えるのではないかと思います。



発行：鈴鹿市議会議員 橋詰 圭一【日本共産党】

No. 3 2016年2.3月号

〒510-0226 鈴鹿市岸岡町2874-1
電話・FAX 059-386-8561
携帯 090 6577 3617
ホームページ [はしづめ圭一] 検索



高齢者の「生活交通」実現へ、2歩前進!

12月議会一般質問で、「高齢者の『生活交通』について」3度目の質問をしました。

「高齢になって運転ができなくなると不便になるとの声や、加齢に伴う交通安全上の問題に家族としても不安を感じている方が多数みえることなど、高齢化の進展により、今後さらに状況が厳しくなることは認識している。しかし、有償、無償に関係なく、既存の交通事業者との協議も必要になることから、本市全体の公共交通のあり方について、今後どうあるべきかを公共交通会議の中で議論する過程で、市民の意向や実態を取り入れられるべきものと考え」と、6月議会、9月議会福祉部局は、前向きな答弁でした。

それを受け、12月議会では、公共交通部局に質問しました。

これまでは、「本市での公共交通空白地域を、駅やバス停から1キロメートル以遠の地域」とし1キロメートル以内は考えていない、とのことでした。しかし、国土交通省が昨年6月に発表した「交通政策白書2015」や「地域公共交通活性化再生法の一部改正」するなど、高齢化社会を迎える中で、高齢者の生活の足をどうするのが全国的に「公共交通」の課題になってきています。鈴鹿市が、いつまでも1キロメートルにこだわって、それ以上のことを考えようとならないのは行政の怠慢ではないかと、問いいただきました。

それにたいして、駅やバス停から1キロメートル以遠の地域にこだわることなく、関係部署と調査研究を行うと、前向きな見解が出されました。高齢者の「生活交通」実現へ、2歩前進です。

国土交通省の資料では、郊外と街の中心地、駅や商業施設を結ぶ交通手段として、全国で「デマンドタクシー」の例が多く見られます。タクシーというと5人乗りのセダンタイプを思い浮かべますが、11人乗り以下の乗合タクシーやワゴン車のことを、「デマンドタクシー」と呼んでいますので、私も今後「デマンドタクシー」という呼び名を使いたいと思います。

6月議会に出した資料で、ほんとうに工夫して、安い経費で「デマンドタクシー」を走らせ、高齢者医療費を削減している自治体もあります。その町の例を単純に鈴鹿市にあてはめると、2億円の予算で30台の「デマンドタクシー」を走らせることができます。もちろんそう単純なものではないが、こういうことを含めた、高齢者の「生活交通」について、引き続き提案し、実現をめざしていきます。

ブログ記事を中心に編集しています。皆様のご意見・感想をお寄せ下さい。日々の活動は、ホームページ、ブログ、facebookをご覧下さい。パソコンでもスマホでも「はしづめ圭一」で検索して下さい。

国民健康保険税は値上げすべきでない

12月議会一般質問で、「国民健康保険について」問いただし、一般財源からの補てんを求めました。

今年になっても、30%値上げしなければ、赤字になり国保が維持できない。県基金から借り入れても20%の値上げが必要・・・という資料が出されています。

市の出す資料には、H24年、25年の2年間と28年度までの見込みしか記されていません。そこで過去7年間の国保決算資料から一覧表を作って見ました(詳細は私のブログに)。大慌てで2割も3割も値上げしなければならない状態ではありません。

また国からも、国保の安定化のために、被保険者一人当たり約5,000円の財政改善効果を見込んだ財政支援が、27年度に1700億円計上されています。単純計算すれば鈴鹿市に2億3千万円入ることになりますが、市はその金額を明らかにしていません。

全国の75%の自治体では、国保税を抑えるために一人当たり平均1万円の一般財源からの繰入を行っています。鈴鹿市でも2009年に約5億円の繰入を行っていますが、それ以後は行われていません。

市民の生活実態からは、2割3割の値上げはとんでもないことです。1月初旬の国保運営協議会でも、市議会全員協議会でも、「一般財源から繰入を行い値上げすべきでない」という意見が多くでました。3月議会に向け、市当局がどのような議案、予算案を出してくるのか市民の皆さんも注目し、値上げ案が出ないように、今から声をあげてほしいと思います。

一部ですが、健保組合は被保険者と企業が折半の負担で税金を入れずに運営してい

る、国保にだけ税金を入れるのは不公平ではないか、という意見もありますが、社会保障としての国保を理解していない議論だと思えます。

国民健康保険の加入者は、学生や未就業者、病気で企業を退職した人、年金者など所得の少ない人です。大昔は自営業者の比率が多かったが最近では少ないのです。

厚生労働省も「市町村国保の抱える構造的な問題」として次のように述べています。

- ①年齢構成が高く、医療費水準が高い
 - ・65～74歳の割合：国保(32.9%)、健保組合(2.5%)
 - ・一人あたり医療費：国保(30.9万円)、健保組合(14.2万円)
- ②所得水準が低い
 - ・加入者一人当たり平均所得：国保(83万円) 無所得世帯割合：23.7%、健保組合(198万円(推計))
- ③所得に占める保険料負担が重い
 - ・加入者一人当たり保険料/加入者一人当たり所得：国保(9.9%)、健保組合(5.0%)



昨年9月、安倍内閣は多くの国民の反対世論にそむき、安保関連法(戦争法)を強行採決しました。戦争法は廃止!立憲主義・民主主義を取り戻せ!の声は、今年もますます大きくなります。

東京設備は不正を正せ

「東京設備は不正を正せ」と裁判に訴えている服部さんの、ピラ配り宣伝を激励してきました。2月6日(土)、ホンダは休みですが、東京設備は止まっている生産ラインの電気工事を行います。従業員は10名弱、朝7時頃から一人2人と出社し、8時前に仕事現場に向かいます。その間、会社前でチラシを配り、ハンドマイクで訴えます。

東京設備という会社をご存じでしょうか。浜松に本社を持つ電気設備工事会社で、浜松と鈴鹿に事業所を持ち、鈴鹿出張所は、主にホンダ鈴鹿工場の電気工事を請け負っている会社です。

鈴鹿出張所の所長をしていた服部さんは、鈴鹿に常勤している専務が自分の息子の社員に残業代を大幅に水増しするなどの、不正経理を指摘しました。専務は不正を認め辞職表明し、社長も従業員に謝罪しました。

しかし、その後も専務はその職を辞することなく、逆に「服部は反逆者」として、鈴鹿から浜松に降格転勤させ9万円もの賃下げや仕事をほすなど、逆処分をしてきました。こうした専務の横暴に、社長は何も言えないのです。

服部さんは、やむなく昨年5月に不当差別撤廃のため提訴し、裁判にのぞみました。



消防出初式・鈴鹿サーキット(1月11日)

- 「会社の不正経理を指摘したら、配転・降格という不当な差別」
- 「社長よりも専務が力を持ち、専務の横暴を正せない会社」・・・いったいどういう会社でしょう。いまだこんな会社があるとは信じがたいことです。

東京設備の主な取引先であるホンダは、企業倫理を大切にし、お客様と社会からの信頼をより確かなものとするために日々努力している会社だと思います。

その関連会社である東京設備は、裁判の判決を待つまでもなく不当処分を正し、従業員を大切にすることを希望しています。

千代崎の地名の由来

千代崎駅に「千代崎駅開業100周年」のポスターがありました。千代崎の地名の由来は、むかし鶴の生息地で、鶴は千年と、海岸を表す「崎」、千年崎から千代崎になったという。縁起のいい地名、駅名だそうです。

千代崎駅は、1916(大正5)年1月9日、伊勢鉄道の白子～千代崎駅間の開通と共に誕生しました。

『千代崎』という名前由来は諸説ありますが、昔この地域の海岸地方は蟹が一面に生い茂り、沼沢や磯馴松の並んだ松原は鶴の生息地として全国的に有名でした。『鶴は千年』と言われる事や、海岸を表す『崎』の文字からこの地域は『千年の崎』ひいては『千代崎』と呼ばれるようになったと言われています。

千代崎駅がこの先『千年』まで、永くお客様から可愛がられる駅であるよう、今後も努力してまいります。

駅長